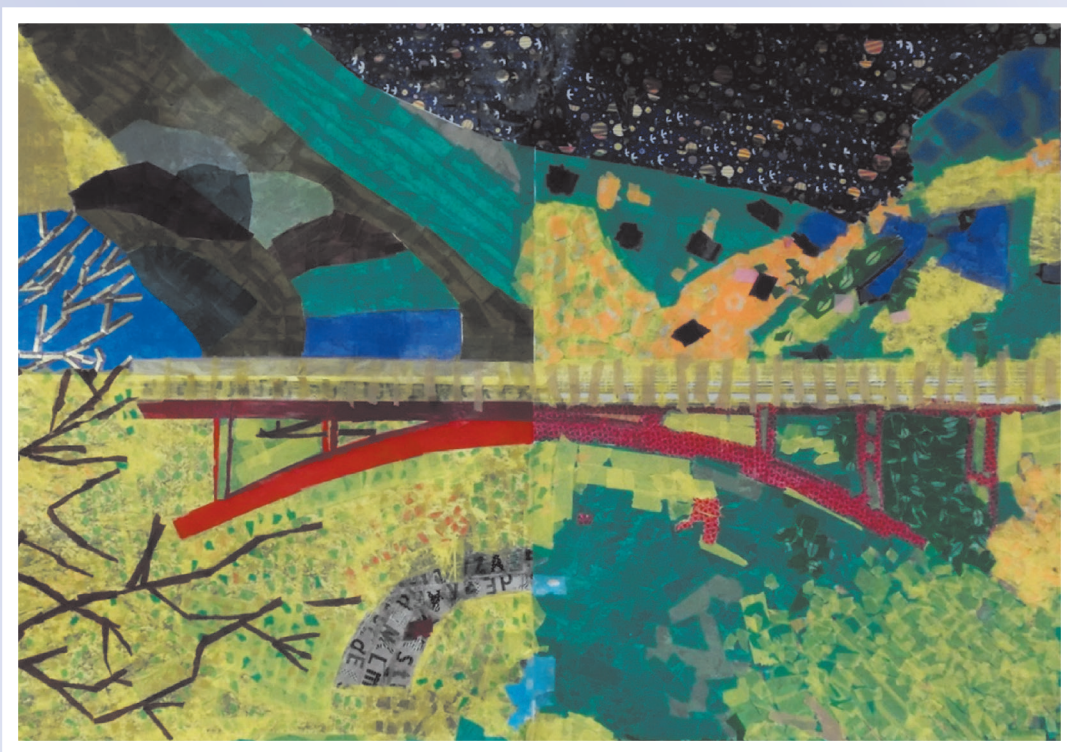


「カンパニオ！仲間とともに」

- 平成28年度岩手県特別支援学校体験記録集 -
第 25 集



表紙イラスト 「夜の仙人峠」
岩手県立釜石祥雲支援学校 高等部2年 共同作品

岩手県特別支援学校連絡協議会
[協力]岩手県特別支援学校PTA連合会
[主管]岩手県立盛岡となん支援学校

※平成２８年度岩手県特別支援学校体験記録集タイトル
「カンパニオ！仲間とともに」について

本記録集の表紙絵、文中の挿絵などは県内特別支援学校へ呼び掛け、応募のあった作品の中から選びました。

タイトルについては、平成２５年度に気仙光陵支援学校からの応募、採用されたものを今年度も使用させて頂きました。

カンパニオはラテン語で一緒にパンを分け合う人々つまり仲間という意味で英語 company の語源となった言葉だということです（気仙光陵支援学校より）。



「猫彩国」

三愛学舎 専攻科１年 沼臺美沙

目 次

「発行に寄せて」

岩手県特別支援学校連絡協議会	会長	民部田 誠		1
----------------	----	-------	-------	---

「挨拶」

岩手県特別支援学校 P T A 連合会	会長	稲垣 基		2
---------------------	----	------	-------	---

————— 体 験 記 録 —————

「ターニングポイント」

岩手県立盛岡聴覚支援学校	卒業生	塩越 晟久さん		3
--------------	-----	---------	-------	---

「社会人になって感じること」

岩手県立盛岡みたけ支援学校	卒業生	磯部 香住さん		5
---------------	-----	---------	-------	---

「社会人になって」

岩手県立花巻清風支援学校	卒業生	高橋 亮雅さん		7
--------------	-----	---------	-------	---

「堅気の人生」

岩手県立釜石祥雲支援学校	卒業生	岡田 光二さん		9
--------------	-----	---------	-------	---

「出会いと経験を重ねて」

岩手大学教育学部附属特別支援学校 卒業生保護者	住吉谷文子さん		11
-------------------------	---------	-------	----

編集後記		13
------	-------	----

【 資 料 】

岩手県内特別支援学校一覧



「春」

久慈拓陽支援 高等部共同作品

発 行 に 寄 せ て

岩手県特別支援学校連絡協議会

会 長 民部田 誠

昭和 57 年から始まった「岩手県心身障害児就学啓発推進会議」（後に岩手県社会参加と自立・就学啓発推進の集いと改称）は、当初の事業趣旨、「障がいのある子どもの保護者への就学啓発」に、「社会参加と自立に向けた地域社会への啓発」を加え、平成 24 年まで開催されました。

本体験記録集は、大会における盲・聾・養護学校（特別支援学校）卒業生・保護者の体験発表に誌上発表分を加えて発行してきたものです。長年多くの方々からご支援、ご共感を得てきたことから大会終了後も発行を続け、今年で 25 回目の発行となりました。

この間、障がい者をめぐる動向は、特殊教育から特別支援教育への転換、「障害者の権利に関する条約」の批准に関わっての国内法の整備が進められ、権利条約の中に明記されている「インクルーシブ教育システムの構築」、「合理的配慮」の提供を具現化するための制度改革等、様々な施策が打ち出されております。

本年 4 月には、障害者基本法の基本理念に沿って、「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）が施行されました。この法律は、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障がいを理由とする差別の解消を推進することを目的とするものです。

このような流れの中、体験記録集をとおして、特別支援学校卒業生や保護者の家庭生活、学校生活、社会生活でのかけがえのない体験、その時々への想い、願いを県民の皆様伝えることで、様々な障がいに対する理解を深め、特別支援学校卒業生、保護者、そして家族へのご理解、ご支援がさらに広がることを願っております。一人でも多くの方々にお読みいただき、障がいのある人もない人も「共に学び、共に育つ教育」の推進と、お互いを理解し尊重し合う「共生社会」へと繋がることを願ってやみません。

結びに、今回の体験記録集の発行にあたり、多くの方々にご協力、ご支援いただきましたことに感謝を申し上げ、発行の挨拶といたします。



「鋼の双龍」

盛岡峰南支援 流通 3 年 佐藤洋太

挨拶

岩手県特別支援学校 P T A 連合会

会 長 稲 垣 基

岩手県特別支援学校 P T A 連合会員の皆様及び、関係の皆様におかれましては、日ごろより教育支援と手厚い心配りを賜り誠にありがとうございます。

今年も発行されます「岩手県特別支援学校体験記録集」は、県内の障がいのある子どもたちが、学校で行われる種々の体験を通して成長し、社会へ巣立っていく、その過程での生き生きとした様子が綴られております。入学したときの親としての不安が、卒業の時には成長した我が子の姿のたくましさを目の当たりにし感動に変わります。特別支援学校での日々の学習は、地道な生活訓練の積み重ねが多いのですが、学校には笑顔があふれ、仲間たちとの交流が、さらに教育に効果をもたらしていきます。後方支援に徹している親たちは、あふれる情熱をもち辛抱強くわが子に関わる先生方に感謝し、運動会や文化祭等で学校を訪れるのを楽しみにして日々生活をしています。交流籍を活用した居住地域の学校との交流では、障がいのあるなしにかかわらず子ども同士の相通じるコミュニケーションが自然にみられ、「障がいとは何だろう。」と灰谷健次郎の「兎の眼」そのものの世界を垣間見ることができています。

この体験記録集は、特別支援学校作品展の会場に置かれ、多くの方にご覧いただけるようにしています。特別支援学校作品展は、大作あり、共同作品ありの見ごたえのある作品ばかりで、ぜひ、支援学校関連外の方たちに見ていただきたいと思っています。なぜなら、先生の指導に独自の感性が加わった味のある作品は、我が子の将来へ不安を抱え迷う就学前の障がい児の親と、保育関係者に安心を与えて未来への明るい光を感じさせてくれるものと信じているからです。保育園、幼稚園で一緒に遊んだ懐かしい名前を見つけたら楽しい思い出がよみがえることでしょう。

最後になりましたが、本体験記録集の発行にご尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。大切に読ませていただきますとともに、これからも P T A 活動を通して特別支援学校の教育環境の充実に努めて参る決意をお伝えし、挨拶とさせていただきます。



「暑中お見舞い申し上げます」

盛岡みたけ支援奥中山校

中3 林下 剛

「ターニングポイント」

岩手県立盛岡聴覚支援学校
卒業生 塩 越 晟 久

4年間の大学生活を通じて、卒業するまでには様々な出会い、別れ、トラブル、思い出、悩みなどが盛岡聴覚支援学校高等部に在学していた時には比較にならないほどたくさんありました。語りだしたらキリがないので、「勉強」「友人・仲間」「彼女」のキーワードで語ろうと思います。

まず、自分が通っていた長野大学での「講義（大学では授業のことを「講義」という）」についてです。大学はそれまでに経験した勉強の環境と比べて違った配慮がありました。その配慮は、「障害学生支援」と言い、様々な障害を持つ学生に対するサポート体制がしっかりしていました。たとえば、聴覚障害学生に対してのサポートでは、講義の時に耳の代わりになって書いてもらう「情報保障」です。先生が喋っていることをそのまま紙に書いてもらう「ノートテイク」、パソコンで入力してチャット的に表示する「パソコンテイク」の2つです。その配慮のおかげで先生の話を理解し、勉強でのつまずきがなかったのも、非常に助けられました。助けてくれている人たちは、情報保障を円滑にサポートするための技術向上としてノートテイク養成講座やサークル内の勉強会など、支援者として努力してくださっています。その代わりに私たちは、実際に支援を受けている立場の声や、支援をする側の声との積極的な意見交換・交流をしていました。たとえば、「講義中に先生が本題からそれて雑談をする場合のパターンはどうするのか?」「ノートテイクとして書かねばならないのか?」などの意見交換がありました。また、年に2回行われる「聴覚障害学生と意見交換会」という大きなイベントのようなものが行われました。そこでは支援学生、学生支援課の方や大学の先生たちとの意見交換もやりました。内容は講義中のマナーの確認や、情報保障のサポートや先生方からの配慮体制の見直し、全体から見る改善点について意見を交換し合う形でした。4年間の講義での情報保障があったからこそ大学を無事に卒業できたと言っても過言ではありません。

また、大学に入ったことでもう1つわかったのは「健聴者と聴覚障害者のズレ」です。健聴者から聴覚障害者に対する見方が少々違ってきます。たとえば「補聴器は万能機器」や「音のない世界」という誤解です。つまり、「補聴器をつけても聴こえない、聴こえづらい世界」があることを知らない人が多いと思います。一方で聴覚障害者から健聴者に対する見方も少々違ってることがあります。「音が聴こえる世界」は健聴者にとっては当たり前のことですが、聴覚障害者から見ればイメージができない世界なのです。だからこそ「聴こえることとはなんなのか」というのが理解しにくいのです。たとえば、一人暮らしをしていた時にテレビの音が大きくなっていることに気づけず、住民とのトラブルへと発展してしまったことがあります。しかし、それに気づ

くことができたのは幸いなことでした。その経験から健聴者に「聴こえないことって何？」を健聴者の立場に立って説明することができるようになり、音のトラブルを起こさないようにどのように行動すべきかを考えられるようになりました。

次に「友人・仲間」についてです。大学で出会った友人の中で一番仲良くなれた人がいます。その人はデフリンピックという聴覚障害者なら誰もがうらやむ聴覚障害者だけの世界大会の競技のうちの1つ、フットサルの日本代表選手に選ばれるほどの実力者でした。最初は当然そのことを知らず、ただの同級生として接していました。一緒に過ごし、お互い助け合いながら年数を重ねていくうちに彼が代表選手合宿に参加することをたまたま知りました。彼に出会ったおかげでデフリンピックに対する興味が俄然と湧いてきました。詳細なことはここではあえて書きませんが（笑）。また、全日本ろう学生懇談会（通称：全コン）ではさすが全国規模というほど、簡単に100人をゆうに越える聴覚障害を抱える大学生たちと関わることができました。それまでは数人規模と、数える程度しかなかったのが、大人数で動く、集団行動というものが本当の意味で経験できました。「手話が分かる」「みんなが何を言っているのかが分かる」そういった環境にいたおかげで、人間関係の複雑さも勉強できました。この経験は社会に出た今、良くも悪しくも役に立っています。

最後に、「彼女」について。身体的な支えは大学で出会った仲間ですが、精神的な支えは彼女の支えでした。彼女とは幼少の時から顔見知り程度でしたが、子どもの時に最後に会ったのは小学校4年生の時でした。そこから数年が経ち、再会したのは盛岡聴覚支援学校高等部に入学するための説明会を受けに行った中学3年生でした。その時は昔会ったことのある人だとは気づきませんでした。入学試験を受け合格し、高等部に入学した時に、彼女と同級生として改めて再会しました。自分の一目ぼれから始まり、付き合ってから現在まで8年が過ぎました。我ながら長く付き合えたなと思います。その間、多少のすれ違いもありましたが、もし彼女がいなかったらおそらく大学でも仕事でも精神的に一人だったのではないかとと思っています。彼女がいてくれたことは、本当に大きな支えとなっています。ノロケみたいになりましたが、それは自分の場合であって、他の人にも当てはまるとは限りません。自分にとって頑張れるきっかけの1つが彼女ということです。

今は大学の時に決めた目標を叶えて、岩手県内にある工場で働いています。社会人生活は思ったよりも辛いです。彼女や仲間が支えてくれるので諦めずに仕事に熱中しています。これまでの23年間、たった2400字程度ではまとめられないほどの経験を重ねてきました。それらの経験を糧に、これからの人生を悔いなく生きていくための土台として、自分をどれだけ成長させていくことができるのかが今から楽しみです。



「中学部の桜」
盛岡聴覚支援 中1 中野美来

「社会人になって感じること」

岩手県立盛岡みたけ支援学校

卒業生 磯部 香 住

私が盛岡みたけ支援学校の高等部に入学したのは、平成22年4月のことでした。そのときの自分は、親元を離れて学園に入り、初めての団体生活への不安もあり、この学校でやっていけるかと不安でいっぱいでした。

入学式では、同じクラスの男の子がいきなり話し掛けてきて、あだ名をつけられました。そのときは、少しびっくりしましたが、おかげで緊張がほぐれました。

高等部では、いろいろなことに挑戦して、経験を上げることができました。特に印象に残っているのが生徒会や全国障害者スポーツ大会です。

私は人前でしゃべるのが苦手だったのですが、生徒会に入り人前でしゃべる機会も多くなり、苦手だった人前でしゃべるのにも慣れました。

そして、私は高等部2年生の時に、卓球競技で全国障害者スポーツ大会山口大会の選手に選ばれて、参加してきました。初めての全国大会で、周りは知らない人ばかりだったのですが、練習していくうちに仲良くなり、そのとき一緒に行った子は今ではおなじクラブに入って、大会も一緒に行ったりする仲です。卓球は、趣味として中学から続けていて、今でも仕事をしながら続けています。普段は休みの日に月2回程度で練習をしています。大会とかが近づくと練習ももうちょっと多いです。大会にも出場していて、県外の大会では、レベルの高さを感じますが、それでもまた頑張ろうと思えます。今年は、全国障害者スポーツ大会岩手大会があり、その選手にも選ばれたので頑張っていきたいです。

私が今の職場に就職したのは、高等部2年生からの現場実習の経験がとても大きかったです。2年生のときには、ちょっと興味のあった老人ホームでも実習をしたのですが、自分にはちょっと合わず、それからは中学時代にも実習をしたことがあり、以前から興味のあった衣料品店に実習をしに行きました。実習してみたら、楽しくて私には服屋さんが合っているなと思いました。

3年生になってからも、何度も同じところで実習をして、今の職場で働くことになったので、実習をして良かったと思いました。

私は、自分が働きたかったところに就職することができたのですが、働き始めると仕事と生活の両立は思ったより難しかったです。最初は仕事に慣れるのにも時間がかかり、生活のことも大変でしたが、今ではようやく慣れました。

学校の頃に実習をしていたときは、仕事の時間も短く、仕事の量も少なかったのですが、仕事を始めてからは、実習の頃とは違い、時間も長くなり、今では入った頃より仕事の量も増えました。

こうやって振り返ってみると、学生時代に学んだことはたくさんあり、今の自分に役立っていることがたくさんあります。その中でも、人前でしゃべるのが苦手だった私ですが、克服したおかげで今の仕事にも役立っています。あと、上手くいかないとすぐに泣いてしまった私ですが、学校できたえてくれたことで、今では泣かずに仕事をしています。他にも役立ったことはたくさんあるのですが、今の私が仕事をしていけているのは、先生方のおかげだと思っています。

そして、職場でのこれからの目標は、レジを打てるようになることです。だから、これからもくじけずに仕事を頑張っていきたいと思います。



「ビオラ」

盛岡みたけ支援二戸分教室

中3 後藤藍衣香

「社会人になって」

岩手県立花巻清風支援学校
卒業生 高橋 亮 雅

僕は、2年前に花巻清風支援学校を卒業し、北上市にある医療法人社団敬和会の日高見中央クリニックのディサービスセンターで清掃の仕事をしています。

僕は、中学3年の時公立高校と私立高校に合格し、4月から公立高校に入学しました。1年間頑張りましたが、単位を取るのが難しく悩んでいました。そんな時、保健室の先生が花巻清風支援学校を紹介してくれました。見学に行って、作業学習の授業が多く、自分に合っているなと思いました。そして、一般就労したいと強く思い、花巻清風支援学校を受験し、みんなよりも1年遅れて入学しました。

花巻清風支援学校では、生徒会長をし、執行部の仕事を頑張りました。作業学習では、環境整備班の班長をしました。話すことが苦手だったのですが、生徒会長になり、自分の意見を話したり、全校の前で挨拶をするなど話す場面が多かったのが大変でした。また、僕の前の会長が立派だったので困りました。それでも、生徒会長や作業班の班長として活躍できたことは、楽しい思い出でもあります。

僕が、現在の仕事に就いたきっかけは、高等部3年生の時の現場実習です。同じ敬和会の「あおやぎ」で実習した時に、実習担当の方と出会い、自分のことを認めてくれたことと、高齢者の方と実習を通して関わったことです。こういった場所で仕事をしてみたいと思いました。利用者の方に、「ありがとう」と感謝の言葉を言ってもらえたことがうれしかったです。

清掃の仕事ですが、3階まである広い建物をみんなで協力しながら行っています。1年目は、清掃点検表で確認しながら掃除をし、掃除した所と掃除していない所をチェックしながら進めましたが、今は、掃除の仕方や順番を覚えたので清掃点検表を確認しなくても掃除ができるようになりました。職員や利用者の方に名前を覚えてもらったり、「掃除のお兄さん」と言われるようになりました。

今年は、後輩が現場実習に来て、僕が指導担当をしました。自分でも勉強になりました。

仕事をしていてうれしいことは、「ありがとう」と感謝されることと、敬和会の職場の方たちが温かい人ばかりなので、毎日気持ちよく仕事ができていることです。気をつけていることは、目上の人ばかりなので丁寧な言葉遣いをするようにしていることと、利用者の方にはぶつからないようにしていることです。そして、笑顔で挨拶することを大事にして仕事をしています。学校で教わったこと、言われたことが大変今の自分に役立っています。

初めて給料をもらった時は、家族にご馳走をしました。「ありがとう」と言ってくれました。給料は、自分の小遣いとして使っています。ボーナスもいただきましたが、それは、貯金しました。木曜日と日曜日が休みで、休みの日は家でゆっくりしています。

これからの夢は、自分で自動車学校に通って免許を取り、車を運転して通勤することです。そして、結婚もしたいです。



「あじさい」

花巻清風支援 小学部共同作品

「 堅 気 の 人 生 」

岩手県立釜石祥雲支援学校

卒業生 岡 田 光 二

僕は、強い人見知りである。医者から適応障害と診断される程である。中1の時に部活で、僕はサッカー部だったが、いけ好かない先輩が居たのと、6月頃に喘息でまともに練習ができず、周りについて行けず、役立たず的な扱いを受けるようになり、学校に行くのをやめた。当時はそのいけ好かない先輩が2年生だったので、その人が部活を引退する来年の中総体後に学校に戻ればいいやと思っていたが、同級生にずっと会っていないと、だんだん顔を合わせ辛くなった。そんな時に震災があった。大津波警報が発表されたが、以前にチリの地震で大津波警報が出た時に、結局来なかったもので、今回もどうせ来ないだろうと思い、家に居たら、親が帰って来て、「何やってんだ、死にてえのか」と言われ、仕方なく暇潰しのためのPSPだけを持ち、近くの高台に行ったら、本当に津波が来た。親が帰って来てなかったら、僕は間違いなく死んでいただろう。一応津波からは逃れられたが、家も無く、食料も無いので、平常時であれば決してやらないことも、やらざるを得なかった。どこの避難所も生き残るために必死だった。中には全壊していない住居に侵入し、金品を盗む者も居た。外に落ちているならまだしも、中に入るのは悪質と言える。と言うか危ない。落ちている食料も、できるだけ海水に浸ってないものを選んだが安全とは言えず、1回腸炎になって、大変なことになった。幸い、避難所に医者が来ていたので、助かった。家の跡地に行ったら、木に1万円が引っ掛かっていたので、有難く頂いた。敷地内だからセーフ。1ヶ月経った頃、みなし仮設として今住んでいる家に来た。もともと取り壊す予定だったので、中も古く、日当たりが悪いのでカビがすごいし、シャワーも無ければトイレの便器にフタが無い。便器のフタは問題ないか。

震災がトドメとなり、さらに学校に行き辛くなった。気付けば進路を決める時期になっており、釜石祥雲は不登校の人が普通に登校できるようになると聞き、そこに決めた。

早速入学した。クラスは6人だったが、中学部から2名と吉里吉里中から3名と大平中の僕で釜石から3人と大槌から3人という風に丁度分かれていた。正直言えば吉里吉里中組とは上手くやっていける気はしなかった。学校の授業も、方程式ほどでは無いが、これ本当に役に立つのかと思うものばかりだった。作業班も、僕は3年間工芸班だが、元々は木工が目当てだった。だが、いつの間にか陶芸一筋になっていた。おかげで僕は釜祥の電動ろくろ製ぐいのみ初代製造者になれた。人見知りのほうは、周りの先生や友人と関わっているうちに、結構軽減され、吉里吉里

中組の人たちとは今でも良い感じに付き合えている。

2年の実習からは、現場に出るようになった。僕はスーパーや電子部品工場で実習をしたが、どこの評価も、作業は問題無いがコミュニケーションが少なく、目を見て話せていないというものだった。やはり知らない人は苦手だったようだ。

3年の夏に、学校の先生の家族がやっているという、矢巾のクリーニング店で実習をした。期間中はその施設が持っているグループホームに住んだ。それは盛岡のつなぎ温泉の辺りにあり、温泉が出るし、三食付き、一人部屋と、環境はかなり良いのだが、仕事場が暑く、仕事自体も大変であり、35度は普通に超えており、作業場の中は40度を超える時もあった。しかも、食事でも僕の口には少し合わず、何よりもトイレが和式という最大の問題があった。トイレは、便器の所が段になっていたので、段に座る感じで解決した。ただ、きつい仕事だったからこそ、終わった後の達成感是他のどの実習よりも多かった。あと、帰りに食べたラーメンが非常に美味しかった。更に、家の食事も美味しく、もう家を出なくていいやと思えた。

3年生に進級した時、校舎が釜石高校に移った。初めは慣れなかったが、気が付いたら慣れていた。中学校の同級生とも会い、なかなか面白いものだった。

11月の実習で、SMCに行った。評価次第で雇ってくれると言って貰えた。学校で色々やらかしたのと合わせて、ここで進路が決まらなければ卒業は無しだと考え、今まで以上に頑張った。

実習が上手くいき、SMCに就職した。先生からはマレーシア工場だとかインドネシア工場だとか言われていたが、日本の釜石第二工場だった。近くにゲオがあるからすごく良い場所である。今は普通に仕事をしているが、最近自分の中のオタクが強くなって、部屋にフィギュアだとかゲームがかなり増えてしまった。アニメも見えていなかったのも、萬屋に行き、アニメを全巻買ったり、そのゲームの新作がプレイステーション4で出ると知り、それに備えるのと、学校で、初任給でプレイステーション4を買うと宣言していたので、早速買った。何のオタクか、何でそのオタクになったかは言わないでおく。これからは、とりあえず車の免許を取ろう。家庭を持つのはいつになるだろうか。だったら相手はオタクを認めてくれる人を望もう。ということで、彼女募集中である。今は貯金から始めた方が良さそうだ。とは言え、1年目から貯金貯金言わなくても良いと思うので、オタクを楽しむ事にしよう。そのうち欲しい物が無くなって自然と貯まってくるさ。



「タイヤ取り」
一関清明支援千厩分教室
中2 熊谷叶未

「出会いと経験を重ねて」

岩手大学教育学部附属特別支援学校

卒業生保護者 住吉谷 文 子

社会人になった娘が、初めて頂いた工賃で家族そして祖父母に、小さいけれど温かい記念品を贈ってくれました。それは本当に嬉しかったです。

自閉症で知的障がいのある娘は、就労支援B型の通所施設に平日は毎日通っています。そんな娘のある一日をのぞいて見ると、障がいがわかってから今までの幼児療育、小・中学校支援学級、支援学校高等部、通所施設と周囲の温かく支えて下さった多くの方との出会いがあって、成り立っていることがわかります。

7：00 朝起きて、着替えや朝食が終わるとピアノに向かいます。

音楽療法との出会いは、姉妹で一緒に通った幼児リトミックサークルに始まります。その時の先生に障がい児への音楽活動教室開催をお願いして、小学校に上がってからも継続して取り組む事ができました。小学校5年生からは音楽療法の先生に個人的に習いにいき、少しずつピアノレッスンに取り組みました。音楽番組や音楽CDが大好きだったこともあって、毎日のピアノ練習はとても楽しそうです。音楽が好き過ぎて、仕事中にも鼻歌がよく出るようです。それには少し困っています。

8：15「行ってきます」の元気な声で出掛けます。施設まで路線バスを使つての自力通所です。

小学校、中学校は徒歩で30分、支援学校高等部は路線バスと徒歩で登下校しました。幼児療育の時に「まずは歩くこと。かかとをきちんとつけてしっかり歩ける子どもになりましょう」から始まりました。よく一緒に散歩をしました。自力登下校では何度も失敗を経験しました。バスに乗れなかったこと、忘れ物や乗客や運転手さんの声かけにパニックになったこともありました。その都度担任の先生と相談しながら経験値を上げていきました。今でも失敗はありますが、ご迷惑をかけながらも一般社会との繋がりをこれからも学ぶ場所として続けていきたいです。

10：00 通所施設では、主に受託作業をしています。休憩時間には絵本を読んで過ごします。

小学校低学年の時、国語の教材が絵本でした。エリックカール「はらぺこあおむし」、谷川俊太郎「もこもこもこ」、西巻茅子「わたしのワンピース」など今も大好きな絵本です。「本を見る」から「本を読む」になったのは、漢字や語彙の理解が増えた小学校5年生くらいからです。漢字検定へのチャレンジを小・中学校の担任が熱心に取り組んでくれました。部首と傍の組み合わせパズルのようで、どんどん覚えていきました。高等部卒業まで継続した取り組みになり、読める漢字も多くなりました。ディズニーやジブリの本を声に出して劇場的にイメージしながら読む姿はとても楽しそうです。

16:00 週に一度は夕方プールに行って泳ぎます。スポーツはどちらかというと苦手ですが、水は幼い時から大好きでした。

姉妹の通っていた幼稚園の小さなスイミングスクールに姉妹と一緒に入会しました。スイミングの指導者の方に水に触れる楽しさや順番を守るなど待つことも教えてもらいました。小学校高学年で担任から背泳ぎやクロールを教えてもらい、泳ぐことの楽しさを知り、ゴールまで頑張って泳ぎきることが出来るようになりました。今も仲間と一緒に水泳の練習する事を楽しみにしています。

高等部で毎朝のランニングを頑張っていました。残念ながら卒業してからは走る習慣は無くなりました。ウィンタースポーツや日本舞踊など体を動かす活動も小・中学校の頃から指導者に恵まれ、続けることができています。主に週末の余暇活動となっています。

17:00 夕方家に帰ってからまず日記を書きます。

小学校の連絡帳に娘本人が今日の出来事や明日の予定を記入する枠が出来て、はじめは小さな枠だったところから少しずつ大きくなり、何時の頃からかノート1ページに書くようになりました。家族旅行の時にも持っていき書きます。日記の内容の殆どがその日の昼食やおやつのことばかりで、トピックスとなる話題は少しだけです。それでも思い出して書くことや、翌日の予定を書くことなどで行動の見通しに繋がっているようです。

20:00 夜の自由な時間は、手芸をしたり、パソコンでゲームやY o u t u b eで映像や音楽を楽しんで、のんびり過ごしています。

小学校の時にスウェーデン刺繍やビーズの学習時間がありました。高等部では染色班で織物作業も経験させてもらいました。絵画・造形の先生との出会いで、針や糸、毛糸などがますます身近になり、自由な発想で作れることを楽しめるようになりました。

教えてもないのにパソコンやスマホを操ることができています。不思議です。高等部の時にローマ字入力の演習があったことは、一人で操作する（見たい情報に辿りつく）力になっています。家では就寝まで好きなことを自由に使っています。独り言で自分の世界に入っていることもあります。娘の周りには好きな物、好きなことが溢れ、それらに囲まれ楽しんでいます。

娘には出来ないことも苦手なこともいっぱいあります。コミュニケーション能力も低く自分の意志を伝えることが困難だったり、誤解されたりする事も多いです。幼児療育の時に教えてもらった「足りない能力を補うために五感を十分発達させてバランス感覚を育ててください」という言葉を今でも思い出します。つまりはいろいろな経験や刺激に触れて、生きる力を育てていくことだと理解しました。そうすることで日々の生活が充実し楽しく過ごしていけるのだと。

なんでもない毎日の中で、親はいつでも子どもの笑顔がみたいです。でも家族だけではどうしようもなく、多くの支援者、指導者の皆様に支えられてその笑顔を引き出していただいています。今まで経験したこと、出会った全ての方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。そしてこれからも娘は新しい出会いや経験を重ねて行くことでしょう。どうぞ温かく見まもりご支援の程宜しくお願い致します。

岩手県立特別支援学校一覧（平成28年4月1日現在）

	学 校 名	対象障がい	住 所	電話／FAX	幼	小	中	高	専	訪問	舎
1	もりおかしらかくしえんがっこう 盛岡視覚支援学校	視覚	〒020-0061 盛岡市北山 1-10-1	(019)624-2986 F 624-3164	○	○	○	○	○	—	○
2	もりおかちようかくしえんがっこう 盛岡聴覚支援学校	聴覚	〒020-0403 盛岡市乙部 4-78-2	(019)696-2582 F 696-5952	○	○	○	○	○	—	○
3	もりおか 盛岡となん支援学校	肢体不自由	〒020-0401 盛岡市手代森 6-10-14	(019)623-3907 F 623-3918	—	○	○	○	—	○	○
	分教室（県立療育センター内）		〒020-0401 盛岡市手代森 6-10-6	(019)652-3637 F 652-3637	—	○	○	○	—	—	—
4	もりおかせいしやうしえんがっこう 盛岡青松支援学校	病弱	〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷 11-25	(019)661-5125 F 661-5170	—	○	○	○	—	○	—
	もりおかこども分教室 （もりおかこども病院内）				—	○	○	○	—	—	—
5	もりおかほうなんこうとうしえんがっこう 盛岡峰南高等支援学校	知的	〒020-0853 盛岡市下飯岡 11-152	(019)639-8515 F 639-8517	—	—	—	○	—	—	○
6	もりおか 盛岡みたけ支援学校（小・中学部）	知的	〒020-0633 滝沢市穴口 218-4	(019)641-0789 F 641-8040	—	○	○	—	—	○	—
	高等部校舎		〒020-0133 盛岡市青山 1-25-29	(019)645-2188 F 645-7301	—	—	—	○	—	○	—
	二戸分教室小学部（石切所小学校内）		〒028-6103 二戸市石切所字田尻平 4	(0195)23-9633 F 23-9633	—	○	—	—	—	—	—
	二戸分教室中学部（福岡中学校内）		〒028-6101 二戸市福岡字下川又 22-1	(0195)23-5507 F 23-5507	—	—	○	—	—	—	—
	二戸分教室高等学校（福岡工業高校内）		〒028-6103 二戸市石切所字火行塚 2-1	(0195)23-3722 F 23-3722	—	—	—	○	—	—	—
7	もりおか 盛岡みたけ支援学校奥中山校	知的 肢体不自由	〒028-5134 二戸郡一戸町奥中山字西田子 1054-1	(0195)35-3036 F 35-3883	—	○	○	—	—	○	—
8	はなまきせいふうしえんがっこう 花巻清風支援学校	知的 肢体不自由	〒025-0037 花巻市太田 27-207-4	(0198)28-2421 F 28-2089	—	○	○	○	—	○	○
	北上分教室（県立中部病院内）	病弱	〒024-8507 北上市村崎野 17-10	(0197)68-2091 F 68-2091	—	○	○	—	—	—	—
	遠野分教室小学部（遠野小学校内）	知的	〒028-0515 遠野市東館町 11-28	(0198)62-3351 F 62-3351	—	○	—	—	—	—	—
	遠野分教室中学部（遠野中学校内）	知的	〒028-0541 遠野市松崎町白岩 11-30	(0198)62-2211 F 62-2239	—	—	○	—	—	—	—

	学 校 名	対象障がい	住 所	電話／FAX	幼	小	中	高	専	訪問	舎
9	まえざわめいほうしやんがっこう 前沢明峰支援学校	知的 肢体不自由	〒029-4208 奥州市前沢区字田島 18-1	(0197)56-6707 F 56-5967	—	○	○	○	—	○	○
10	いちのたませいめいしやんがっこう 一関清明支援学校 本校舎	聴覚・病弱 知的 肢体不自由	〒021-0041 一関市赤荻字上台 96-5	(0191)33-1600 F 33-1601	○ 聴	○	○	○	—	—	—
	山目校舎	病弱・知的 肢体不自由	〒021-0056 一関市山目字泥田山下 48-12	(0191)25-3210 F 25-2770	—	○	—	—	—	○	—
	あすなろ分教室 (独立法人国立病院機構岩手病院内)	病弱	〒029-0803 一関市千厩町千厩字北方 105-1	(0191)53-2275 F 53-2275	—	○	—	—	—	—	—
	千厩分教室小学部（千厩小学校内）	知的	〒029-0803 一関市千厩町千厩字上駒場 195-5	(0191)53-3181 F 53-3181	—	—	○	—	—	—	—
11	けせんこうりようしやんがっこう 気仙光陵支援学校	知的 肢体不自由	〒022-0006 大船渡市立根町字宮田 33-3	(0192)27-8500 F 27-8501	—	○	○	○	—	○	○
12	かまいししやうんしやんがっこう 釜石祥雲支援学校	病弱・知的 肢体不自由	〒026-0053 釜石市定内町 4-9-5	(0193)23-0663 F 23-0679	—	○	○	○	—	○	—
	高等部校舎（釜石高校内）		〒026-0055 釜石市甲子町 10-614-1	(0193)25-3030 F 25-3036	—	—	—	○	—	—	—
	しゃくなげ分教室 (独立法人国立病院機構釜石病院内)	病弱	〒026-0053 釜石市定内町 4-7-1	(0193)23-0663 F 23-0679	—	○	○	○	—	—	—
13	みやこけいふうしやんがっこう 宮古恵風支援学校	知的 肢体不自由	〒027-0097 宮古市崎山 5-88	(0193)63-0400 F 64-3617	—	○	○	○	—	○	—
14	くじたくようしやんがっこう 久慈拓陽支援学校	知的 肢体不自由	〒028-7801 久慈市侍浜町堀切 10-56-46	(0194)58-3004 F 58-3660	—	○	○	○	—	○	○
15	いわてだいがくきよういくがくがくふぞくとうくべつしやんがっこう 岩手大学教育学部附属特別支援学校	知的	〒020-0824 盛岡市東安庭 3-4-20	(019)651-9002 F 622-3822	幼児 教室	○	○	○	—	—	—
16	がっこうほうじん 学校法人カナン学園 三愛学舎	知的	〒028-5133 二戸郡一戸町中山字軽井沢 49-33	(0195)35-2231 F 35-2781	—	—	—	○	○	—	—

相談を希望される方のために！お子様の療育や就学、将来の進路等の相談に応じます。いつでもご連絡ください。

岩手県教育委員会事務局 学校教育室 特別支援教育担当	019-629-6143(直通)	岩手県宮古児童相談所	0193-62-4059
岩手県立総合教育センター 教育支援相談担当	019-27-2473 (コスモダイヤル電話相談)	岩手県一関児童相談所	0191-21-0560
岩手県福祉総合相談センター 児童女性部児童相談課	019-629-9604 019-629-9605	岩手県立療育センター内 岩手県発達障がい者支援センター	019-601-2115

【編集後記】

今年も多くの皆さまの御協力をいただき、岩手県特別支援学校体験記録集を発行できることとなりました。

貴重な体験を文章にまとめていただいた卒業生と保護者のみな様、並びに各ページを飾る児童生徒作品を提供してくださった各支援学校のみな様に心から感謝申し上げます。

今回をもって、当記録集の発行も 25 回目を数えることとなりました。

第 1 集（当時の名称は「岩手県盲・聾・養護学校体験記録集」）の発行から四半世紀にわたる歴史を築きあげてきた先輩諸氏に心から敬意を表するとともに、物心両面から御支援いただいている日本教育公務員弘済会岩手支部様ならびに「ひまわり号」基金様に対して改めて深く感謝申し上げます。

今年（平成 28 年）は岩手県において、希望郷いわて国体とともに、全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」が開催される記念すべき年であり、二つの大舞台を通じて、県内の特別支援学校児童生徒が、たくさんの人々の前で素晴らしい活躍をみせてくれることになっています。

この体験記録集に納められた貴重な記録文と、国体・大会における児童生徒の活躍とが、ともに多くの人々の心に感動を生みだし、「共に学び・共に育つ」教育、ひいては「共に生きる」社会づくりに繋がる確かなエネルギーになることを祈りながら、編集後記といたします。

岩手県特別支援学校体験記録集作成事務局

岩手県立盛岡となん支援学校

校 長 及 川 求



「木製トレイ」

宮古恵風支援 高等部共同作品



「あじさい」

盛岡となん支援 中 2 相原王典

「カンパニオ！仲間とともに」

－平成２８年度岩手県立特別支援学校体験記録集－ 第２５集

発 行	平成２８年１０月
発 行 者	岩手県特別支援学校連絡協議会
	会 長 民部田 誠（岩手県立盛岡視覚支援学校長）
	〒０２０－００６１ 岩手県盛岡市北山１丁目１０番１号
	TEL ０１９－６２４－２９８６
編 集	岩手県立盛岡となん支援学校
	校 長 及 川 求 他作成事務局職員一同
	〒０２０－０４０１ 岩手県盛岡市手代森６地割１０番地１４
	TEL ０１９－６２３－３９０７
協 賛	公益財団法人 日本教育公務員弘済会岩手支部
	いわてひまわり号基金
印刷・製本	あべ印刷株式会社



「ガーベラ －鉛筆デッサン－」

盛岡青松支援
高１ 菊池孝一朗



「自画像」

岩手大学教育学部附属特別支援
高２ 佐々木康治



「元気なスイミー」

岩手県立前沢明峰支援学校 小学部5年 共同作品